

九ノ一六、大乗院日記目録

出典 大乗院寺社雜事記中大乗院日記目録に所収

解説 大乗院寺社雜事記は大乗院門跡であつた尋尊・政覚・経尋の三代が記した日記。応仁の乱前後の根本史料とされ、重要文化財に指定されている。大乗院日記目録は大乗院第二十七代門跡である尋尊（一四三〇～一五〇八年）が大乗院に伝来した日記類を編集したもので、その内容は一〇六五年から一五〇四年に至る記録類から、重要な社会的事件などを抄出し、編年で記述したもの。

大乗院日記目録は辻善之助他校訂の大乗院寺社雜事記十二（国会図書館デジタルコレクションにあり）に掲載されている。

原文

元弘元 正月十四日、良覚牛車宣、

九月五日、貞氏入滅、康永二年八月廿一日贈從三位宣下、

十一月、孝覺法花會堅義、十三日慈恩會堅問役、

三月五日、左近将監時益・越後守仲時上洛、為兩六波羅、此間者常葉駿河守範貞成敗、一人沙汰也、

五月六日、報恩院関白薨^{八十五} 覺意禪師父公也

八月十一日、良覚辞寺務職、十四日入滅、^{四十也}

廿二日、東使上洛、

廿四日、主上都落、^{東大寺行幸}

廿六日、鷲峰寺^{和東}行幸

廿七日、笠置山行幸、以本堂為皇居

九月一日、東軍於干等院著到、二日笠置城責之、七万五千騎云々、数日合戦、般若寺本性房参上御方、

十七日、依召河内楠正成参上、

九月五日、貞氏入滅、^{康永二年八月廿一日、贈從三位、於關東}

九月廿日、光嚴院踐祚、^{廿一}

十月、主上奉入平等院、笠置城備中国住人陶山藤三義高・小見山次郎落之、^{山脱か}

十三日、楠木楯籠赤坂城、以三万余騎責之、

十一月二日、孝覺法花会堅義、

十二月十三日慈恩會堅問、

十一月十日、維摩会、

十二月廿一日、春日御八講始之、

廿六日、寺務良覺還任印鑑渡之、

^{正慶元}二、前帝奉遷隱岐国了、